

General Certificate of Education (International)

Advanced Subsidiary Level

「日本語」のガイド — Speaking と Essay

香港日本語教育研究会 日本語教育アドバイザー 木山登茂子

このガイドは、2009年8月に香港大学現代言語及文化学院で行われたワークショップの配布資料をもとに、「日本語」を受験する生徒たちとその指導に当たる先生方のために作成した。筆者の判断により内容を選択し、加筆して日本語で記した。(2011年8月1日)

配布資料: *Curriculum and Teacher Support*

Delegate Pack

for Professional Development Course

University of Cambridge International Examinations

試験の概要

Speaking	約 20 分
Reading and Writing	1 時間 45 分
Essay	1 時間 30 分

結果は a, b, c, d, e (合格) と o, u (不合格) として出る。Speaking で合格水準に達したのものには Distinction、Merit、Pass (特別に優秀、優秀、可) が記録される。

1. Speaking について

100 点満点で、点数配分は全体の 30%

Section1: プレゼンテーション (20 点) 受験生の選択したトピックについて
約 3 分のプレゼンテーション

Section2: トピック会話 (40 点) プレゼンテーションで選択したトピックに関する
7-8 分の会話

Section3: 一般会話 (40 点) 一般的な事柄についての 8-9 分の会話

Section1: プレゼンテーション

トピック

- ・ 試験の前に関心のあるトピックについて調査し準備する。
- ・ トピックは、Appendix A のリストから選んでもよいし、これ以外のものでもよい。
- ・ その言語が話されている国の現代社会、文化の継承 (例えば芸術や文学作品についてなど) に関する知識を反映させなければならない。その国の社会問題を取り上げるなら、統計や参考資料を引用する必要があるだろう。

プレゼンテーションの内容

- ・ 事実と意見に仮説を加えて議論を展開しなければならない。
- ・ そのプレゼンテーションについて聞いた人が6つぐらいの質問を考えられるものでなければならない。
- ・ 得点は構想と意見に対して与えられるので、事実の羅列であってはいけない。

プレゼンテーションの方法

- ・ トピックの準備をするときは、プレゼンテーションの構成をよく考えて、段落ごとの見出しを考えるのはいい方法だが、全てを書き出したり、暗記したりするのはよくない。
- ・ 暗記すると、それを正確に言うことに集中してしまう結果、聞き手に論理的なつながりがわからにくくなってしまう。
- ・ 地図、図表や統計資料、写真、短い記事などをプレゼンテーションに持ってきてもいい。記事を長く引用するのはいけない。
- ・ プレゼンテーションのスクリプト（原稿）を見て話してはいけない。しかし、論じたいポイントを忘れないために5つ以内の項目を書いたカードなら試験会場に持って来てよい。
- ・ プレゼンテーションはおよそ3分とする。3分30秒をすぎても終わりそうもないとき、試験官は途中で受験生の話を遮って、質問を始める。
- ・ プレゼンテーションからトピック会話へと自然に移る。

Section2: トピック会話

- ・ プレゼンテーションに対する予想質問を作って準備しても、予期しない質問も受けることになるだろう。
- ・ 質問に対する理解と答え方が得点の対象となるので、単純な短い答えではなく、詳しい説明するように答えることが望ましい。
- ・ 具体例をあげて実証する、詳しく述べる、明確化するなどの練習が必要。
- ・ 情報の追加を求められたり、意見の表明や反論に対して自分の意見を擁護したりすることを求められることがある。
- ・ 高得点を得るために、会話の内容を深めたり、関連領域に話題を広げたり、ある程度の会話の主導権を握ったりする能力が必要。この力を出す機会を与えるために、試験官は「どうしてですか。」「どのようしますか。」「もっと詳しく話してください。」などの質問をする。この質問の目的は、単純な文での応答に終わらず、受験者ができるだけ主体的に会話に参加できるようにするためである。
- ・ 「トピック会話」の中では受験生が試験官へ質問することも求められている。もし自然な会話の流れの中で質問をする機会がなかったら、試験官は次の「一般会話」の終わりに「何かわたしに聞きたいことはありませんか。」と聞いて、質問を促すことになる。もし、質問ができなかったら、「情報と意見の求め方 (Seeking Information and Opinions)」という配点基準の点数が取れないことになる。

Section3: 一般会話

- ・ 「トピック会話」が終わったところ試験官が「では、もっと一般的なことについて話しましょう」などと言って、セクションが移ったことを知らせる。このセクションでは自分自身のこと、興味のあることなどについてのわかりやすい質問から始まって、その後、現代社会にまつわる事柄、あるいは時事問題についての会話に移る。

- ・ 「一般会話」のテーマは、受験生の興味やプレゼンテーションで選んだテーマによって違う。「トピック会話」で選んだ話題以外でも同じくらい滑らかに話せるかどうかを試験官は確かめる。現代社会の話題について話せなければならないが、すべての話題について話せなくてもよい。もし、受験生にとって答えにくい話題だとわかったら、試験官は話題を変えることになっている。また、受験生のほうから別の関心のある話題を提案してもよい。
- ・ 試験官は「〇〇は好きですか。」と聞いて受験生の興味のあるトピック探し、「どうして?」「どのように?」「〇〇についてどう思いますか。」などの質問をして受験生の興味のあることについて会話を深めたりしようとする。
- ・ 「一般会話」のセクションでも受験生は質問をしなければならない。
- ・ 会話の中で、質問に正しく答えるよりも、自分の意見を表現することが求められている。唯一の正しい答えはないと考えたほうがよい。
- ・ 意見を交換するための会話ができるようになるために、先生や友だちとよく練習するとよい。

「一般会話」の展開の仕方

- ・ 「一般会話」の練習をするとき、試験官が何について話したいと思っているか、どんな質問を受け、それに対してどう答えるか想像してみるとよい。もし、あるトピックについてたくさん答えられたら、受験生はある程度会話の主導権を持つことができるだろう。
以下は、よい議論がどのように展開するか、の例である。

1. 学校

あなたの学校について話してください。

いい学校ですか。どうしていい/悪い学校だと思いますか。

あなたは何を变えたいと思っていますか。どうしてですか。

一般的な話として、あなたは教育制度についてどんな考えがありますか。

もし、あなたが教育局の長官だったらどのように改革をしていきたいですか。

「教育」とは何ですか。定義してください。

2. 科目

どんな科目を勉強していますか。

それはなぜですか。

外国語のコースについてどう思いますか。どうしたら改善できると思いますか。

現代社会で文章を読んだり書いたりすることや古典の勉強は役に立つと思いますか。

今、全ての人は外国語を勉強すべきですか。

ここから、「ヨーロッパについて」「国家の孤立主義」「世界における言語の役割（アフリカにおけるフランス語、ドイツ語、ポルトガル語、ラテンアメリカとスペインにおけるスペイン語など）」に質問が発展する。

3. 外国

外国に行ったことがありますか。

あなたの国と行ったことのある国を比べてください。どんなところが共通点/相違点ですか。

外国でどんな経験をしましたか。どちらが好きですか。なぜですか。

もし選べるとしたら、どこに住みたいですか。なぜですか。

豊かな国は開発途上国に対して義務があると思いますか。

自然災害の支援、論争の妥結、戦争への干渉、国際機関の役割などの議論に発展する。

4. 自分の住んでいるところ

今までずっと香港に住んでいますか。

<「いいえ」という答えに対して>

前にどこに住んでいましたか。どこが好きですか。なぜですか。

住むことに関して重要なことは何ですか。なぜそう思いますか。

<「はい」という答えに対して>

若い人や旅行者にとって香港はどんなところですか。どんなことができますか。

どんな所が好きですか。

都会と田舎の生活、社会問題へと話が発展する。

5. 余暇

暇なとき何をしますか。

<スポーツだったら>

見る方が好きですか。する方が好きですか。

チーム競技ですか。個人競技ですか。なぜですか。

学校のスポーツ、アマチュアスポーツ対プロスポーツ、スポーツにおける薬物、ナショナリズムとスポーツ、スポーツにおける暴力、国の役割についてなど

<テレビを見るだったら>

どんな番組が好きですか。

ニュース: ニュースは重要ですか。政府はニュースを検閲すべきですか。検閲制度について発展する。

映画: 映画産業、文化に対する助成金

ドキュメンタリー: ドキュメンタリーは教育として、娯楽として役に立ちますか。事実の伝達という機能ですか、それとも議論の提供ですか。メディアの力、出版の力などに発展する。

アドバイス

- ・ 歴史、生物、地理などの話題は事実を描写する力を発揮することに向いているが、アイデアや意見を述べるのに向かない面がある。もし、これらのトピックを選ぶ場合、どうやって議論を深めるかよく考えておくとよい。
- ・ インターネットはとても便利な情報源だが、入手できる情報が多いという理由だけでこれを使ってトピックを選ばないほうがよい。本当に興味のあることを選ぶことをおすすめする。
- ・ プレゼンテーションはしっかり準備したほうがいいが、予行練習をしすぎると、早口になりやすく、発音とイントネーションが悪くなりやすいので注意が必要。
- ・ 「一般会話」では、あなたの将来の夢、自由時間の過ごし方、最近のできごとなどを話す可能性がある。「わたしはテレビを見ます。」のような単純な事実を述べるだけでは足りない。なぜテレビを見るのか、どんな番組を見るのか、現代社会におけるテレビの役割についてまで、話を展開

できなければならない。

- ・ 「トピック会話」でも「一般会話」でも少なくとも2~3の質問をしなければならない。
- ・ 試験官が、リラックスした雰囲気を作って受験生に話す機会を与え、受験生が持てる力を発揮できるように努力しているということを忘れないでほしい。できるだけプラス評価をしようとしているのだから、怖がらないように。

Speaking の配点基準

Section 1: プレゼンテーション

- * プレゼンテーションの配点は20点満点。
- * 日本の現代社会や文化の継承についてまったく触れなかった場合、「内容 (Content)」が半分 (5点) になる。

内容/プレゼンテーション (10点) 事実に関する知識：意見を表明する能力、話題を議論に取り入れる能力	発音/イントネーション (5点)	言語 (5点)
9/10 トピックの内容を十分にカバーし、構成がしっかりしている。アイデアと意見に、実例がついている。生き生きしたプレゼンテーションで試験官はずっと興味を持って聞き続ける。	5 発音とイントネーションがずば抜けてよい。時々小さな間違いと言いよどみがある。母語話者並みになる必要はない。	5 なめらかで正確。慣用表現を適切に使える。様々な構文と語彙を使いこなせる。
3/4 素材が乏しい。とりとめのないおしゃべりである。繰り返しが多い。アイデアや意見がほとんどない。試験官は興味を失いがち。	2 理解できるが、母語の影響が強く、発音上の間違いも多い。	2 言いよどみが多く、構文や語彙が限られている。意味が曖昧になりやすい。
0/1/2 事実に関する情報がほんの少しだけ。素材が適していない。一貫性がない。曖昧。プレゼンテーションの努力が足りない。試験官が戸惑う。	0/1 とても問題が多い。理解が出来ないことが多い。	0/1 言いよどみがたいへん多い。構文や語彙の不足が深刻。思考過程に母語の影響が大きい。

Section 2 & 3 トピック会話と一般会話

* 各 40 点。

* 小項目の配点はそれぞれ 10 点。

理解と反応 (10 点)	正確さ (10 点)	言語 (10 点)
9/10 理解に問題がない。試験官の質問に対する応答が速い。積極的に話す。議論を進める力を備えている。適切に意見をもとめ求めたり提供したりする。	9/10 正確さを維持している。小さいミスをするのみ。	9/10 語彙の選択が適切で、概念を滑らかに表現する。母語の影響がほとんどない。
5/6 基本的な状況と概念であれば質問が理解できる。応答が少し遅れる。トピックを展開するのに聞き手による励ましが必要。	5/6 正確さはある程度のレベルに達している。しかし、文法において明らかな重大な不足点がある。	5/6 時々適切なイディオムが使える。思考過程や表現に母語の影響が見られる。
0/1/2 理解に深刻な問題がある。口ごもりが目立つ。限られた反応である。	0/1/2 文法的な正確さをつかんでいない。間違いを繰り返す。	0/1/2 目標言語（日本語）の感覚がまったくつかめていない。

語彙と文法構造の範囲 (10 点)

情報と意見の提供	情報と意見の求め方*
5 使用語彙の範囲が広く、使い方も適切である。自信を持って使える文法構造の範囲が広い。	5 自信を持って一つ以上の質問ができる。自発的に、あるいは、質問を促されてする質問だが、話している話題に関連している。正確で、様々な質問の仕方ができる。
3 語彙や構文の不足からアイデアの表現が限られている（しかし、曖昧なところはない。）	4 少なくとも一つ質問をすることができる。自発的に、あるいは、質問を促されてする質問だが、話している話題に関連している。質問文を作るのに苦労しているが、理解可能な質問である。
0/1 とても限られた語彙。単純な文で、構文にバラエティーがない。	1 質問しようとするが、その質問は理解できない。 0 質問を促されても質問ができない。

* 「トピック会話」の終わりまでに質問をしなかった受験生は「何か質問はありませんか。」と聞かれるだろう。一般会話のときも同様である。しかし、このために減点されることはない。

3. Essay（以下、エッセイ）について

- * エッセイの時間は1時間半。
- * 40点満点で、点数配分は全体の20%。

シラバス

毎年5つのトピックが公表される。

2011年11月試験のトピックは、「家族」「法と秩序」「スポーツ」「雇用と失業」「技術革新」

試験

5つの質問が問題用紙に書かれている。

質問はシラバスの各トピックから1つずつ作られる。受験生は1つの質問を選び、日本語で600から800字でエッセイを書く。（他の言語は250から450語）

書く過程

試験でエッセイを書く過程は、クラスでエッセイの準備をする状況と大いに異なる。グループでアイデアを出し合ったり、議論したり、原稿を書いたり、書き直したり、評価したり、再評価したりするという過程を、静かな試験会場では経ることができない。各段階をひとりで行なって、よく考えたきちんと構成された文章を書かなければならない。

背景知識の学習

エッセイの準備は試験のずっと前に、学校の教室ではないところで始められることが多い。エッセイとは読み手を説得する文章である。読み手をうまく説得するためには、書き手は世界に関する知識と、自分自身のアイデアや意見の両方を持っていなければならない。このような知識と意見を持つためには、書き手は時事問題に意識を向け、文学作品を読み、ときには世界の偉大な思想家の作品を深く理解することも必要。現代社会では、電子メディアへの依存がますます強くなり、テレビ、映画、ラジオ、インターネットが提供する無数の情報によって人々は視野を広げ、他者や異文化や異なる考え方に気づく機会が増えてきた。書き手がエッセイを書くためには、このように蓄積された知識がよりどころとなり、意見の源になるのである。

タイトル

エッセイには説明を要求するようなタイトルが用意されている。タイトルは、しばしば引用のような形になっている。受験生は、提起された命題に対して賛成か反対かを尋ねられたり、あるいは、そのテーマに対する意見を求められたりする。

- 1 法律は、仮にそれが悪いものだったとしても、従わなければならない。あなたはどうか。
- 2 スポーツは、協力の精神よりも攻撃性を助長するものである。あなたの考えを述べなさい。

常識的なものの見方とは異なる立場に立って考えさせるタイトルもある。

- 3 人間が暴力的になれるのはしあわせなことなのだ。

もっと、答が限定されないものもあるが、命題に対する意見を述べることが要求されることは共通している。

4 わたしたちは若さを失うことを恐れるべきだろうか。

問題用紙を見たら、受験生はまずタイトルと、答えとして何を求められているかを確認することが大切。上の3番のような問題は、一般的に考えられていることと正反対の考え方を検討することが求められている。そのために、受験生は、普段考えていることと異なった立場から機論を展開させなければならないこともある。

タイトルを注意深くチェックしたら、質問の相対的な難易度を判断する必要があるだろう。この段階では、受験生が持っているそのテーマに関する知識、その問題に関連することについて勉強したことがあるかどうか、根拠となる事実をきちんと整理する能力があるかどうかなどが影響する。この段階の判断ができれば、タイトルをひとつ選び、次のステップに進む。

観点

どんなタイプのタイトルを選んでも、受験生は自分の観点を提示し、その正当性を述べなければならない。どのタイトルに関しても、根本的に正しいとか間違っているという答えはない。試験官は、受験生の意見の提示の仕方とそれを表現する日本語を判定する。自然で正確な日本語によって巧みに論じられたエッセイは、どんなに物議をかもしような内容でも、どんなに独特な意見であっても、良い点がつく。

計画

受験生には何度も原稿を書き直すような時間がない。できるだけ早く必要な情報を整理すること、エッセイの構成を決めること、構想を書くことが重要。さらに、提示したい観点を定め、書いていることすべてがその観点に向かっていくようにすることが大切である。考える時間、構想を書く時間は、エッセイ本文を書くことと同じぐらい重要である。

構想の段階で、要旨はエッセイの「導入部」として役に立つ。各段落 (paragraph) の始めに来るトピックセンテンスはこの段階で書いたほうがよい。こうすることによって段落の要点がはっきりし、そのあとに続く文が書きやすくなる。「結論」は述べたいことのエッセンスを一文で表すといい。

上のようなステップで、おおよその構想が書けたら、何か欠けていないかよく考え、不要な情報を削り、そのかわりによりふさわしい素材を入れる。以上の過程が終わって、初めてエッセイ本文が書き始められる。

構成

エッセイの構成は、エッセイのタイトルや、その内容をどう展開していくかによって異なるだろう。しかし、どのエッセイにも「導入部」「本論」「結論」(an introduction, a middle and a conclusion)が必要。

「導入部」では、タイトルに直接関連する書き手の観点をその場で表現してもいい。(たとえば、「その法律が良いか悪いかに関わらず、法律を尊重することは大切である。」のように) または、議論したい内容の実例として具体的な事実や出来事を「導入部」で叙述するという方法もある。(たとえば、

「強盗が農場に押し入り、そして、農場主に刺されて死亡した。農場主はこの暴力的行為のために終身刑を言い渡された。結果：司法制度に対する抗議」のように)

議論のためのエッセイ (argumentative essay)

エッセイは、書き手の意見だけでなく、異なる観点にも触れてバランスを取ったものであるべき。ある事例に対して賛成、反対の双方の観点が明確に論じられなければならない。そうでなければ、読み手を説得できるものにならない。

そのためには様々な方法がある。

方法1：まず、書き手が賛成する命題を提起する。そして、次にそれに反対する命題を提起する。「結論」の前に読み手に対して肯定的な印象を与えたい場合は、順番を逆にしてもいい。最後に、両命題を統合して、双方の間のどこかに新たな観点を見出す。

方法2：先に肯定的な観点を述べ、次に反論をあげ、さらに肯定、反論と続けることもできる。否定的な観点を先にするということもできる。しかし、このような方法は読み手に断片的な印象を与え、説得力が弱くなる傾向がある。

多方面にわたるエッセイ (discursive essay)

「わたしたちは若さを失うことを恐れるべきだろうか。」のように様々な観点から問題を吟味することを求めるエッセイもある。書き手は様々な観点、たとえば、健康、仕事、余暇、責任、財源などの観点から論じることができる。それぞれの下位項目の中で、利点と欠点を論じてもいい。様々な問題点を検討した結果、タイトルの質問に対する答えになる結論に至らなければならない。

スタイル

エッセイでは、フォーマルな文章に適した文体を選ばなければならない。スラングやいわゆる若者言葉を使ったり、読み手に馴れ馴れしく呼びかけたり、話し言葉の文法を使うのはふさわしくない。

フォーマルな文体の特徴は、まじめな調子と正しい文法形式にある。手紙の文体にもカジュアルな文体とフォーマルな文体があるがそれに似たことがエッセイにも言える。英語では、打ちとけた相手への手紙は“A big hug from.”あるいは“Lots of love”などで、フォーマルな手紙は“Yours Sincerely”で終わる。書き手は、どの文体がどんな状況にふさわしいか知らなければならない。同様に、エッセイの書き手は「いろいろ考えたけど、やっぱりそれはあまりいいアイデアじゃないと思った。」と「熟慮の末、私たちが直面している問題の解決にならないと結論づけた」の違いを学ばなければならない。

教科書やエッセイの書き方のガイドなどで見つけた紋切り型の表現 (set phrase) を自分のエッセイの中で使ってみたいという誘惑にかられることが時々あるが、これらの表現は思慮深く、控えめに使ったほうがよい。このような紋切り型の表現が多いエッセイは受験者自身の作品でなくなってしまう。定型表現が多すぎると、陳腐な決まり文句でできた意味のない文章になってしまう。

評価

エッセイは言語的側面と内容から評価される。40点満点のうち、24点は言語に、16点は内容に配点される。

言語

言語要素は、次の3要素に分けて配点される。

① 正確さ、②滑らかさ (fluency)、③範囲

①正確さ

正確さは文法的な要素に関連し、文法的正確さが高いと、高得点が与えられる。16歳以降の学習段階で学んだ文法構造を理解していることと、それ以前に学習した文法をマスターしていることを示すことが期待されている。

②滑らかさ (fluency)

滑らかさは複文構造の質と精巧な使い方、スタイル（上記「スタイル」参照）のセンスを示すことに関わる。複文構造をより精巧に使いこなし、適切なスタイルで表現できれば、高得点が得られる。

③範囲

範囲は語彙と慣用表現に関することである。もし、受験生の語彙が広範囲に広がり、適切であれば、高得点が与えられる。受験生の語彙が限られていて、繰り返しの使用が目立ち、選択が不適切で、母語の影響が強ければ、得点は低くなる。

内容

内容の得点は次のふたつの項目からなる。

①情報／焦点／関連性、②計画／構成／議論

①情報／焦点／関連性

素材の質と、質問に対して明確に妥当な答えを書く能力を評価する。もし、受験生が質問で取り上げられた問題に対して広い知識と真の理解を示すことができ、答が質問に対して妥当なものであり、かつ、具体例や参考資料によって論拠を示すことができたなら、高得点が得られる。質問に対してわずかに答えになっているものの曖昧な一般論に過ぎない場合や、質問に対する答えになっていない場合は、得点は低くなる。

②計画／構成／議論

アイデアを導入し、展開し、結論に導く段落を構成する能力を測る。受験生のエッセイがよく構成されていて、議論に一貫性があり、題材がよく検討されて、論理的に結論に導かれていたら、高得点が得られる。もし、アイデアが散漫、論理的一貫性がない、「導入部」も「結論」もない、議論が適切に展開されていない、などの場合は得点が低くなる。

結論

エッセイは、勉強した多数のトピックに対する受験生の考え方を提起する機会になる。このエッセイ

は、外国語学習を評価するという状況のなかで書かれているということ認識する必要がある。このため、言語的側面の方が内容的側面よりも配点が高い。どのトピックについて何について書くにしても文法的正確さと広い範囲の正確な語彙と慣用表現の使用と適切な文体の感覚を示さなければならない。この基準に合致したエッセイを書いた受験生は「言語」の項目で高い点が取れる。タイトルに対して妥当で、議論が論理的で、しっかり組み立てられた議論のあるエッセイは「内容」の項目で高い得点が得られる。

エッセイの配点基準

言語 (24 点)	内容 (16 点)
21-24 複文構造を使いこなしている。一般的に正確で、語彙の範囲が広い。慣用表現の使い方が適切。	14-16 詳細な内容が含まれていて、かつそれが的確なものであり、それに対して十分な説明もあり、一貫性のある議論で構成されている。
10-15 往々にして単純で、文章が稚拙でぎこちない。ある程度の正確さがある。慣用表現の使い方が不適切。	7-10 限られた知識はあるが、それが的確なものだとは限らない。議論をする能力は限られている。
1-4 非常に単純な文だけ。文法に対する理解が乏しい。語彙も限られている。	1-2 曖昧で漠然としている。アイデアが散漫。

APPENDIX A: TOPIC AREAS FOR THE LANGUAGES (OTHER THAN ENGLISH) SYLLABUS

試験に使われる文章の素材は、日本に関連した次のトピックから選ばれる。

人間関係
家族
世代差
若者
一日の生活
都会と田舎の生活
メディア
食べ物と飲み物
法と秩序
宗教と信仰
健康とフィットネス
仕事と余暇
機会均等

雇用と失業
スポーツ
余暇活動
旅行と観光
教育
文化生活、伝統の継承
戦争と平和
開発途上地域
科学と医療の進歩
技術革新
環境
(文化財/資源/自然)の保護
公害
現代日本